

# 出身者いない「わっかない会」

## 会員300人 東京の異業種交流会



東京千代田区 雅内出身者は1人もいないが、異業種交流会として盛り上がる「わっかない会」12月上旬

雅内出身者が1人も本家の「東京雅内会」信用調査会社、東京商にも宿泊。「会の集まりは、平々素素した東京を離れて雅内で飲むようにさくばらん。『わっかない』0回まで続ける」と気勢を上げた。

12月上旬、都内の料亭で知り合った常連が声を掛け合い、3カ月に一度、異業種の人たちが近況を語り合った。乾杯のあいさつはあった北海道料理店

### 活動10年、「本家」と交流へ

「わっかない亭」。増連だった道内と九州の出身者が意気投合し異業種交流会を始めた。店は3年前に閉店し、店主だった岩崎力蔵さんも昨年、86歳で死去したが、活動は続いた。岩崎さんは石川県出身だが雅内の水産加工場で30年以上働いた。妻久代子さん(83)は「店が消えても会が続いてうれい」と話す。

わっかない会の登録者が、北海道と九州の会を、故郷が最も経済人が手をつなぐ場に「と期待する。わっかない会の会員たちは昨年2月、東京雅内会の例会に参加した50人のうち一度も雅内を訪れた人は16人だけで、大半は「まだ見ぬ第二の故郷を思いかにかかわらず雅内を愛する者同士交流を深めたい」と話す。

参加2回目不動産会社役員栗山直樹さん(43)は20年前にバイクで道内を1周し、雅内にも宿泊。「会の集まりは、平々素素した東京を離れて雅内で飲むようにさくばらん。『わっかない』0回まで続ける」と気勢を上げた。

12月上旬、都内の料亭で知り合った常連が声を掛け合い、3カ月に一度、異業種の人たちが近況を語り合った。乾杯のあいさつはあった北海道料理店